

中教審短期大学WG第4回  
事例発表@メルパルク東京  
2014年3月28日(金)13:00～15:00

# 卒業生調査等をもとに短大の コミュニティ・カレッジへの途を探る

吉本圭一(九州大学)

# 発表の構成

1. 短期大学卒業生調査からの知見
  - 短期大学の教育的効用逡減性
  - 短大教育のモデルの多様性
  - 職業統合的学習の可能性
2. 大学、短大、専門学校の比較
3. 卒業生など地域のステークホルダーと関わる短期大学の力
4. 第三段階教育と職業実践的な教育への可能性

# 1-1.短大卒業生調査からの知見(1)

(2004年-短期大学基準協会&九州将来構想研究会調査)

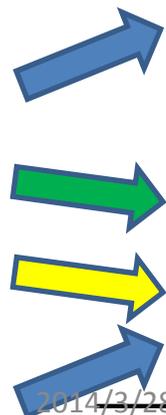
1. 人格形成や就職支援について、短大教育を高く評価している。ただし長期的効用は逡減、卒業後の年数とともに効用感が頭打ち・低下。
2. 短大在学中は密度の濃い授業の経験をしている。ただし、教育の幅広さには低い評価もある。アカデミックな要素と現実課題に対応した要素を統合した正課の充実を通して学習への動機付けを高めていくことが課題。
3. 卒業後の厳しい職業的環境の中で、卒業後7年目までに職業生活への関わり方は多様化。職業生活への意欲が高まる一方でキャリアの「天井」にぶつかっていると感じている者もいる。
4. 人文・工業などの出身から別の専門分野への進学した者も多く、母校の短大への評価はそうしたタイプの進学者の方が高い。

－ 調査対象は、8短期大学の卒業後1年目(H15卒)3年目(H13卒)、7年目(H9卒)の全卒業者。平成16年1月～3月に卒業生7,325名に調査票を送り、回収総数は1,291名(回収率17.6%)

# 1-2-1.短大間の学習成果の比較

## (短大安部科研2005年調査)

短大名	①短大で獲得した知識・技能の役立度(現在の仕事)	②現職:1ヶ月の収入(万円)	③市民的活動参加(選挙の投票など9項目の参加度の合計値)	④短大教育の有用性: a:満足のいく仕事を見つける上で	⑤短大教育の有用性: c:長期的な職業生活(キャリア)の基礎とし	⑥短大教育の有用性:f: 人格の発達の上で	⑦仮想的評価:a:18歳で同じ短大に進学するか
A	3.62	14.41	26.46	3.80	3.69	3.73	3.52
B	3.51	14.63	26.31	3.76	3.54	3.59	3.67
C	3.46	14.51	27.82	3.71	3.53	3.55	3.27
D	3.11	15.21	27.84	3.38	3.17	3.58	3.36
E	3.22	15.69	28.15	3.15	3.31	3.34	3.42
F	3.87	14.29	27.05	3.90	3.84	3.75	3.55
G	3.79	14.28	27.30	3.81	3.61	3.69	3.49
H	3.80	13.88	26.75	3.83	3.74	3.61	3.58
I	3.51	15.03	27.90	3.71	3.59	3.78	3.70
J	2.72	17.89	28.49	3.57	3.61	4.13	4.04
K	3.73	14.45	26.28	3.86	3.40	3.58	3.60
L	3.20	14.76	26.31	3.44	3.28	3.54	3.40
M	3.90	14.89	28.37	3.86	3.75	3.48	3.61
N	3.04	15.27	27.42	3.24	3.31	3.43	2.90



• 1-2-2.J短大の効用感(効用が逡増するケース)

卒後 年数	I1-a:満 足のいく 仕事を 見つける 上で							I1-b:現 在の職 務をこな していく 上で		I1-c:長 期的な 職業生 活(キャ リア)の 基礎とし て	I1-d:人 間関係 を広げた り深める 上で	I1-e:充 実した家 庭生活 を送る上 で	I1-f:人格 の発達 の上で	I1-g:教 養(品 位、一般 常識、マ ナー)を 深める 上で	I2-A:短 大	I2-A-a: 同じ短大											
	平均値	度数	標準偏差	平均値	度数	標準偏差	平均値	度数	標準偏差	平均値	度数	標準偏差	平均値	度数	標準偏差												
2年 目	3.58	96	1.16	<b>2.98</b>	89	1.29	3.67	94	1.15	3.81	96	0.98	3.46	95	1.04	4.15	96	0.93	<b>3.80</b>	96	0.96	<b>3.70</b>	90	1.26	4.01	93	1.31
4年 目	3.55	88	1.16	3.15	88	1.17	3.51	88	1.04	3.86	88	1.05	3.42	88	1.03	4.11	87	0.95	3.90	88	0.91	3.71	76	1.26	4.10	83	1.27
8年 目	3.57	107	1.06	<b>3.18</b>	107	1.26	3.63	107	1.15	3.86	107	0.99	3.42	107	1.11	4.12	107	0.77	<b>3.96</b>	107	0.80	<b>3.81</b>	100	1.32 <sup>5</sup>	4.01	101	1.31

## 1-2-4.卒業生調査(2005)の小括

- 職業効用型と人格形成型の棲み分け
- 職業効用型の長期的効用には限界
- 人格形成型は大学の長期的効用型に近い、  
職業対応には限界
  - いわゆる教養授業というよりも専門の卒論で鍛えることの長期的効用
- 短大のファーストステージ論的可能性
  - 職業を教育の手段として通して進路設計
  - 地域総合科学科などのキャリア探索支援

# 1-2-3.J短大のカリキュラム(教養と専門:非職業)

卒後 年数		B4-1A- a:選択で きる授業 の多様 性(充実 度)	B4-1A- b:カリ キュラム の体系 性(全体 的なまと まり)(充 実度)	B4-1A- c:卒業論 文や卒 業研究 の位置 づけ(充 実度)	B4-1B- d:豊かな 教養を 身につ ける授 業(充実 度)	B4-1B- e:専門的 知識や 技術を 身につ ける授 業(充実 度)	B4-1B-f. 実践で 役立つ 実学性 重視の 授業(充 実度)	B4-1B- g:授業方 法工夫 がある 授業 (充実度)	B4-1B- h:学生か ら質問す る機会 が多い 授業(充 実度)	B4-1C-i: 就職・進 路指導 の体制 や実習 の機会 (充実度)	B4-1C-j: 進路や 悩みなど を気軽に 相談 できる体 制(充実 度)	B4-1C- k:図書 館、LL、 PCなど の学習 環境充 実度)
2年 目	平均値	3.85	3.96	<b>3.24</b>	<b>4.20</b>	<b>3.67</b>	3.62	3.94	<b>4.26</b>	<b>3.95</b>	<b>3.82</b>	<b>4.21</b>
	度数	94	93	92	94	94	94	93	94	94	94	94
	標準偏差	0.94	0.85	1.13	0.96	1.03	1.14	0.98	0.95	0.99	1.16	0.91
4年 目	平均値	3.99	3.96	3.57	4.19	3.63	3.44	4.04	4.15	3.63	3.58	4.18
	度数	89	89	88	89	89	88	89	89	89	89	89
	標準偏差	0.80	0.93	0.98	0.84	0.99	0.93	0.90	0.87	1.06	1.15	0.89
8年 目	平均値	3.91	4.10	<b>3.62</b>	<b>4.09</b>	<b>3.94</b>	3.69	4.01	<b>3.95</b>	<b>3.72</b>	<b>3.44</b>	<b>4.08</b>
	度数	107	106	104	107	107	107	107	107	106	106	107
	標準偏差	0.98	0.83	1.10	0.85	0.91	1.00	0.96	0.96	0.98	1.08	1.12

# 1-3-1.短大・専門学校卒業生調査

## (吉本EQ科研2012年)

### 卒業後年数別の初職継続率

(%)

	医療系国家資格 (看護・リハビリ・福祉)	其他国家資格 (保育・栄養・理美容)	調理・製菓	工業(情報を含む)	ビジネス・キャリア・人文・観光	芸術・デザイン	その他 (スポーツ・ペット)	
短大	卒業3年まで	80.4	83.2			75.9	82.4	
	卒業4～6年	42.9	55.5			51.5	55.8	
	卒業7～10年	36.0	35.3			43.3	27.3	
専門学校	卒業3年まで	87.2	68.8	52.2	84.8	78.2	75.5	70.6
	卒業4～6年	66.7	41.1	20.4	54.5	40.0	46.8	48.6
	卒業7～10年	56.6	35.3	14.7	35.2	36.6	22.4	28.0

科研(2012 吉本):参加機関:55機関(短大21、専門学校34)

## 1-3-2. 初職から現職への移行、関連分野比率の変化

		就業行動継続率 <sup>1)</sup>	初職の関連分野比率	現職の関連分野比率	
短大	医療系国家資格(看護・リハビリ・福祉)	88.4	88.4	88.8	注1)初職回答者と現職回答者の比
	其他国家資格(保育・栄養・理美容)	89.0	89.2	84.4	
	ビジネス・キャリア・人文・観光	91.4	50.0	52.2	
	芸術・デザイン	86.1	64.3	65.7	
	計	89.5	76.2	73.5	
専門学校	医療系国家資格(看護・リハビリ・福祉)	95.0	97.5	95.1	
	其他国家資格(保育・栄養・理美容)	95.4	91.9	87.1	
	調理・製菓	89.8	91.1	67.1	
	工業(情報を含む)	94.5	77.0	69.6	
	ビジネス・キャリア・人文・観光	92.1	62.7	55.2	
	芸術・デザイン	94.0	73.8	69.7	
	その他(スポーツ・ペット)	88.6	84.8	78.6	
	計	93.0	88.9	78.9	

## 1-3-3.卒業後の能力形成の重要性

- 短大・専門学校卒業生は、自分のもつ能力のうち、36～38%を短大等の卒業後に身につけたと回答
  - 卒業1年以内の卒業生が、自分の能力の「32%は卒業後」に身につけたとしているが、ここまできると、それは、職業能力に係る社会的通念によるところが大きいのではないか？卒業7-10年でも「卒業後は41%」
- 「在学中」は30%：分野や卒業後年数で差はない
- 「入学前の小中高」はほぼ34～35%

## 1-3-4.能力の構造 -必要性と段階的な獲得、-

- 必要性の構造は(1)基礎的・社会的技能、(2)専門的知識・技能で構成されている。ここで、高校までの基礎的知識理解は特に問われない。
- 獲得の構造をみると、医療系資格の場合、高校までの基礎的知識、専門的知識が固有の構造をなし、他の分野でも、専門的知識・技能の基礎となっている。
  - 工業、ビジネス、デザインで関係構造が強い
  - 医療、保育では専門知識獲得と別構造
- 能力形成において、卒業直後の経験によるところが極めて大きい。

### 1-3-5. インターンシップ等の就業体験の経験率(複数回答)

		資格実習	インターン シップ	専門と関連 するアルバ イト	専門と関連 しないアル バイト	経験ない	n
短 大	保育・栄養・理美容	79.3%	7.2%	15.4%	64.0%	2.3%	837
	ビジネス・キャリア・人文・観光	31.6%	37.4%	9.1%	80.8%	3.3%	396
	芸術・デザイン	53.3%	4.2%	16.7%	62.5%	7.5%	120
専 門 学 校	医療系国家資格	61.2%	3.5%	12.2%	63.3%	7.5%	1094
	保育・栄養・理美容	55.2%	17.1%	15.2%	75.2%	4.8%	105
	調理・製菓	22.0%	2.9%	40.2%	45.7%	10.5%	1336
	工業	23.4%	12.2%	7.4%	69.7%	15.5%	393
	ビジネス・キャリア・人文・観光	26.7%	50.6%	11.6%	70.9%	8.7%	172
	芸術・デザイン	18.2%	28.4%	15.1%	63.8%	13.3%	489
	その他(スポーツ・バイト)	47.4%	51.1%	35.6%	52.6%	.7%	135

## 1-3-6. インターンシップや専門関連アルバイトは、専門分野と関連のある職業への移行を支援

初職の専門分野との関連(就業体験別)(複数回答)

	関連分野で ある	関連分野で ない	合計	
資格実習	<b>57.2%</b>	42.8%	100.0%	159
インターンシップ	<b>60.0%</b>	40.0%	100.0%	220
専門と関連するアルバイト	<b>61.1%</b>	38.9%	100.0%	54
専門と関連しないアルバイト	53.8%	<b>46.2%</b>	100.0%	409
就業体験なし	41.7%	<b>58.3%</b>	100.0%	24
合計	53.6%	46.4%	100.0%	409

注) 集計対象は、ビジネス・キャリア・人文・観光の専門分野

# 1-3-7.教育の評価

## 資格実習＞インターンシップ＞就業体験あり＞体験なし

表5-1 インターンシップ等の就業体験と教育の有用性・満足度

	総合的に振り返って卒業した短大・専門学校に対する満足度	短大・専門学校教育の各観点からの有用性					
		(1) 就職先を見つける上で	(2) 仕事に必要な基礎を身につける上で	(3) 仕事で一人前になる上で	(4) 将来のキャリアを展望する上で	(5) 仕事に必要な学習を続けていく上で	(6) 人格を形成していく上で
資格実習	4.13 2260 .873	4.23 2333 1.002	4.37 2329 .856	3.96 2322 .993	3.87 2329 .984	4.18 2325 .899	3.77 2325 1.025
インターンシップ	4.14 450 .902	4.24 478 .995	4.21 476 .945	3.74 477 1.023	3.68 474 1.000	3.95 471 .998	3.77 475 1.028
専門と関連するアルバイト	4.04 558 .949	4.10 565 1.088	4.17 562 .960	3.72 564 1.109	3.78 564 1.094	4.02 564 .984	3.46 563 1.111
専門と関連しないアルバイト	3.92 934 .950	4.06 933 1.060	4.14 932 .967	3.75 934 1.003	3.64 929 1.021	3.92 934 .969	3.54 933 1.033
就業体験なし	3.91 1857 .955	4.01 1868 1.073	4.06 1866 1.022	3.57 1860 1.089	3.53 1860 1.084	3.83 1864 1.035	3.41 1868 1.112
合計	4.02 6059 .926	4.13 6177 1.045	4.21 6165 .951	3.77 6157 1.050	3.71 6156 1.042	4.00 6158 .979	3.60 6164 1.074

# 1-3-8.在学中の適切な能力形成、資格実習、インターンシップを含む職業体験の有効性

	総合的に振り返って本学 に対する満足度		仕事に必要な学習を続け ていく上で	
	ベータ	有意確率	ベータ	有意確率
性別(1男性/2女性)	.042	.011	.059	.000
学校種(1短大/2専門学校)	.022	.353	.085	.000
卒業後年数(1=3年未満/2=4~6年/3=7~10年)	-.030	.058	-.073	.000
(1)医療系国家資格(看護・リハビリ・福祉)	.150	.001	.019	.649
(2)その他国家資格(保育・栄養・理美容)	.156	.000	.054	.163
(3)調理・製菓	.192	.000	-.035	.415
(4)工業(情報を含む)	.107	.001	-.031	.306
(5)ビジネス・キャリア・人文・観光	.123	.000	-.059	.055
(6)芸術・デザイン	.132	.000	-.055	.082
資格実習	.057	.033	.064	.013
インターンシップ	.030	.125	.010	.582
資格実習/インターンシップ/専門と関連するアルバイト	.060	.080	.085	.011
就業体験あり(専門と関連しないアルバイト含む)	-.052	.056	-.029	.270
基礎的社会的能力	.129	.000	.154	.000
専門的能力	.136	.000	.172	.000
能力形成比率1(高校まで)	.014	.411	.023	.154
能力形成比率2(短大・専門学校在学中)	.259	.000	.242	.000
調整済みR自乗	.121		.176	

## 1-3-9.小括(1)

### 1. 職業への移行

- 専門学校は各分野で短大よりも円滑な移行
- 資格系とビジネス、デザイン系で大きな差
  - 国家資格系で高い定着率、専門関連性の維持

### 2. 能力形成

- 卒業1年目の職業経験を通して、それまでに保有していた能力と比して、その半分近くを積上げ、その後も、工業・医療などで能力積み上げが大きい
- 短大・専門学校ともに基礎的社会的能力と専門的能力の構造がある
- 工業、医療では、高校までの基礎的知識が独自の構造で形成されており、卒業後の基礎として重要であるが、他方で短大・専門学校による独自の能力形成に注目することもできる

## 1-3-10.小括(2)

### 3. 教育・学習経験とインターンシップ等のWIL

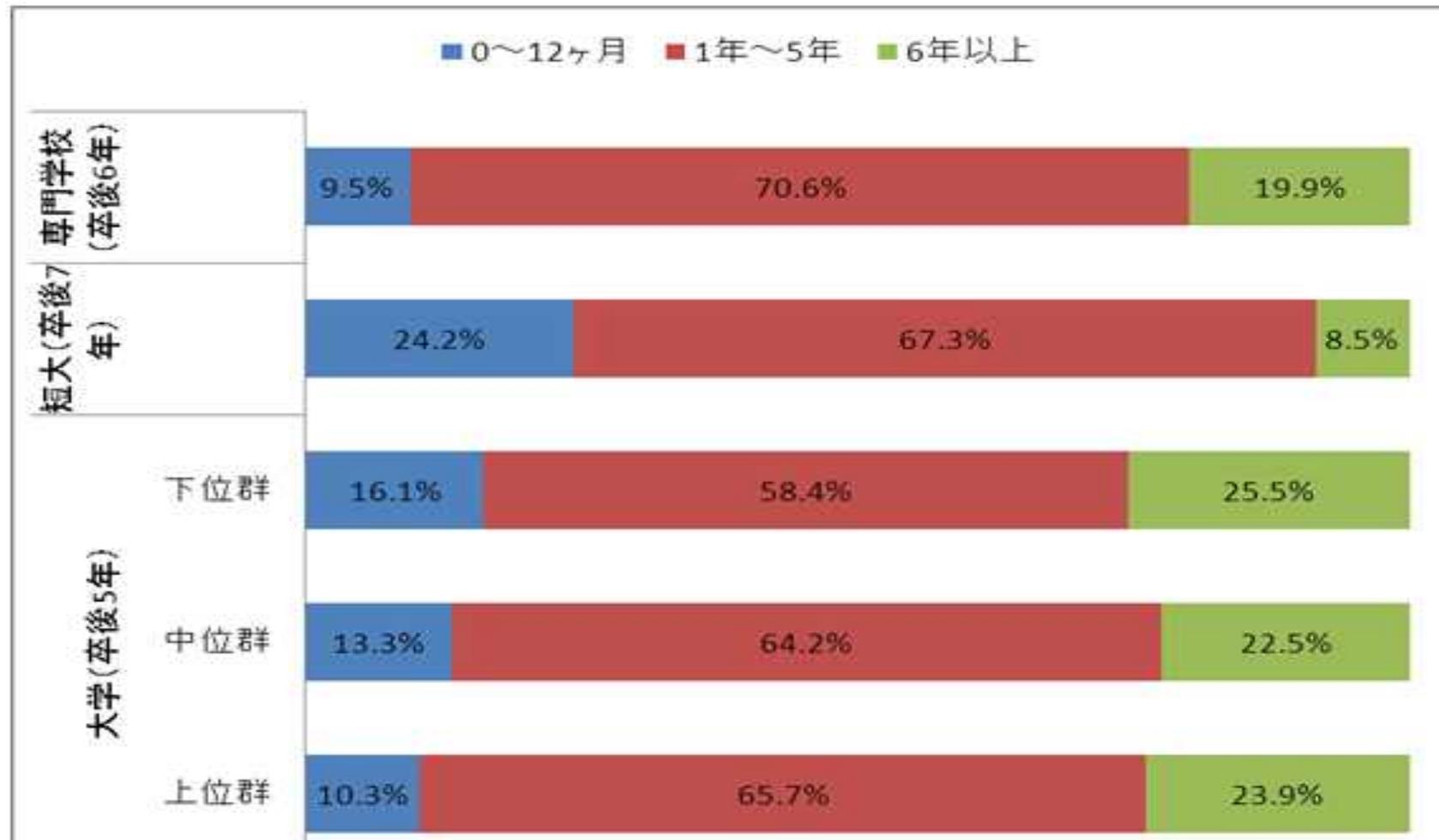
- 専門教育は、短大・専門学校で類似する位置づけ
- 職業経験、資格実習等の重要性、専門と関連するアルバイトが効用発揮。インターンシップだけでなく、資格取得のための実習など教育課程に位置づけられた職業統合的な学習 (Work integrated learning) に注目していく必要

### 4. 短期高等教育の効用

- 即効性があるが、卒業年数とともに効用逓減傾向
- 基礎的・社会的な能力よりも、専門能力が卒業後のボコの評価としては高い効用感・評価をもたらす

## 2-1. 大学・短大・専門学校比較(1)

現在の仕事で一人前になるために必要な期間

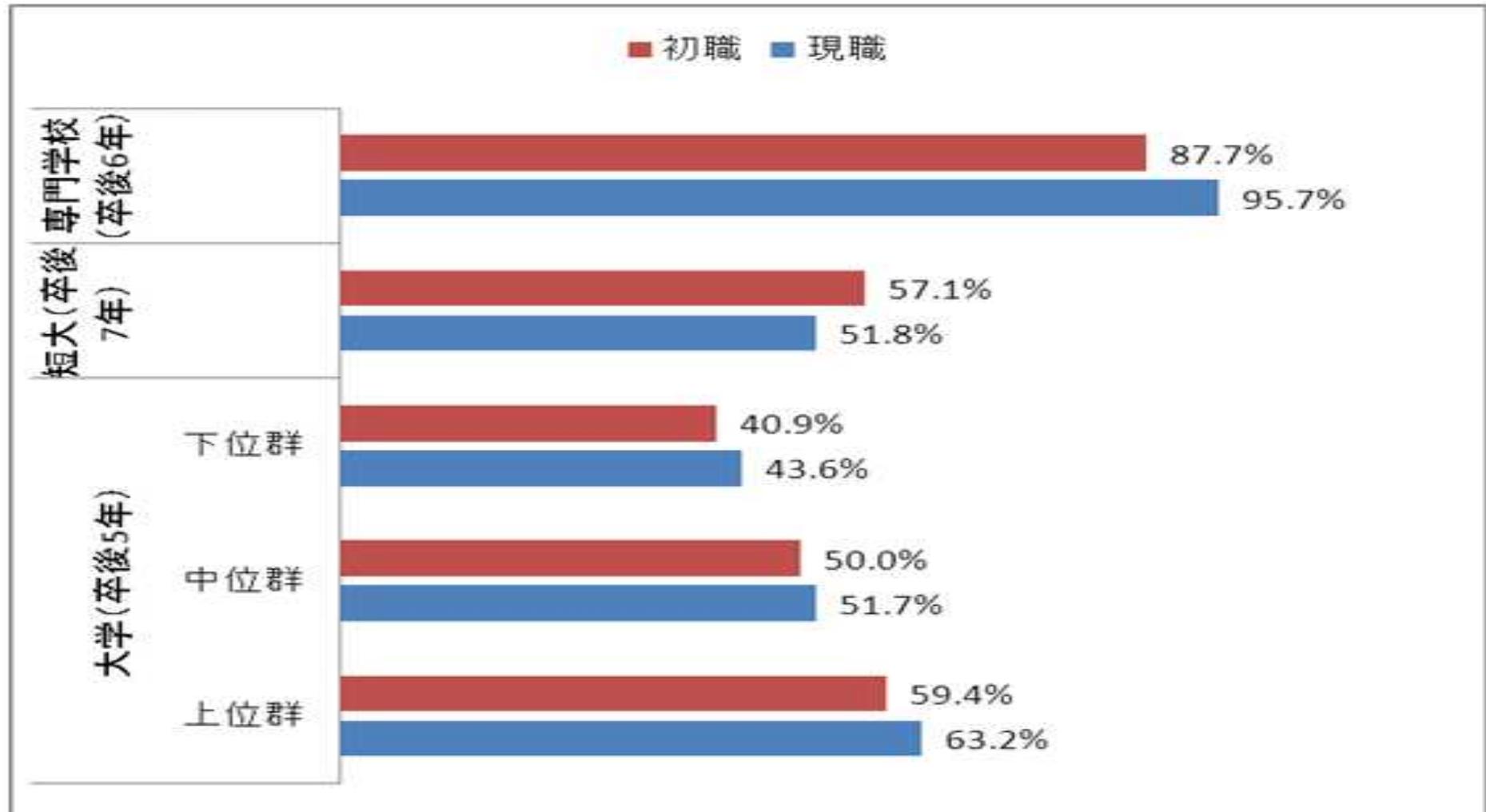


201 稲永・吉本「高等教育修了者の初期キャリアにおける仕事と教育の有用性」、『短期高等教育研究』第3号、短期大学コンソーシアム九州、2013年(以下2-5まで)

## 2-2.比較 (2) 仕事と専攻分野の 対応

a) 専門学校					
		卒後3年	卒後6年	卒後10年	合計
初職		91.2%	87.7%	93.5%	90.9%
	<i>N</i>	171	212	231	614
現職		92.2%	95.7%	95.1%	94.5%
	<i>N</i>	167	207	224	598
b) 短期大学					
		卒後1年	卒後3年	卒後7年	合計
初職		73.0%	67.8%	57.1%	65.4%
	<i>N</i>	742	823	919	2484
現職		68.7%	63.7%	51.8%	60.6%
	<i>N</i>	670	771	878	2319
c) 大学					
			卒後5年		合計
初職			51.3%		51.3%
	<i>N</i>		2061		2061
現職			54.0%		54.0%
	<i>N</i>		1933		1933
* セル内は「自分の専攻(専門)分野が、もっともふさわしい」「自分の専攻(専門)分野か、あるいはそれに関連する分野」と回答した者の比率。					

## 2-3. 比較(3)仕事に対する専門分野の 適切性：初職と現職



## 2-4.比較(4) 在学中に獲得した知識・ スキルの有用性:経年比 較

a) 専門学校 <sup>1)</sup>						
		卒後3年	卒後6年	卒後10年	合計	
初職		70.5%	59.6%	63.7%	64.2%	
	<i>N</i>	173	213	234	620	
現職		67.0%	67.9%	73.4%	69.1%	
	<i>N</i>	230	209	169	608	
b) 短期大学 <sup>1)</sup>						
		卒後1年	卒後3年	卒後7年	合計	
初職		64.5%	58.5%	51.8%	57.8%	***
	<i>N</i>	764	838	938	2540	
現職		61.1%	55.3%	49.3%	54.7%	***
	<i>N</i>	683	788	899	2370	
* p<.05 ** p<.01 *** p<.001						
c) 大学 <sup>1), 2)</sup>						
			卒後5年		合計	
初職			35.5%			
	<i>N</i>		2065			
現職			56.3%			
	<i>N</i>		1933			
1) セル内の数値は、「5.とてもよく使っている」～「1.まったく使っていない」の5件法のうち、4と5を足し合わせた比率						
2) 「自分の持っている知識や技能」。つまり、在学時に獲得した知識や技能に限定した聞き方はしていない						

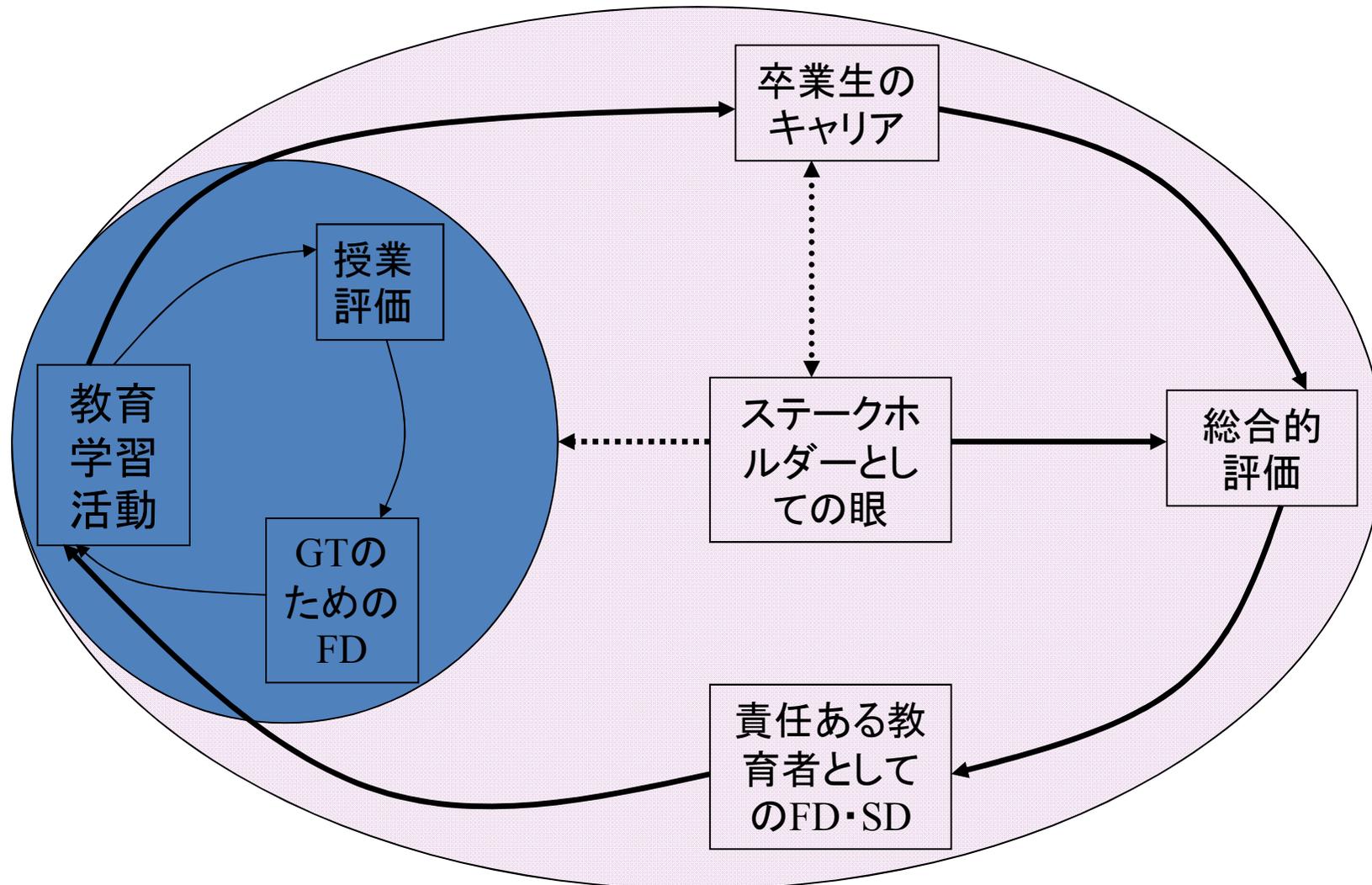
## 2-5.小括:短大教育の効用の即効性と逡減

- 一見、短大では、卒後経過年数が短いグループでは、初職における専門分野の適切性の評価が高くなっている(教育改善)ように見える。
- しかし、卒業後7年を経過した段階で、大学や専門学校と異なり、仕事に対する専門分野の適切性は低いままで、在学中に獲得した知識やスキルの有用性は卒業後の経過年数が長くなるほど減少(=教育の効用の逡減)。
- このことは、短大の女子卒業生のライフコースの固有性おいうだけでは説明できない(専門学校について女子のみでの分析をしても傾向は変わらない)

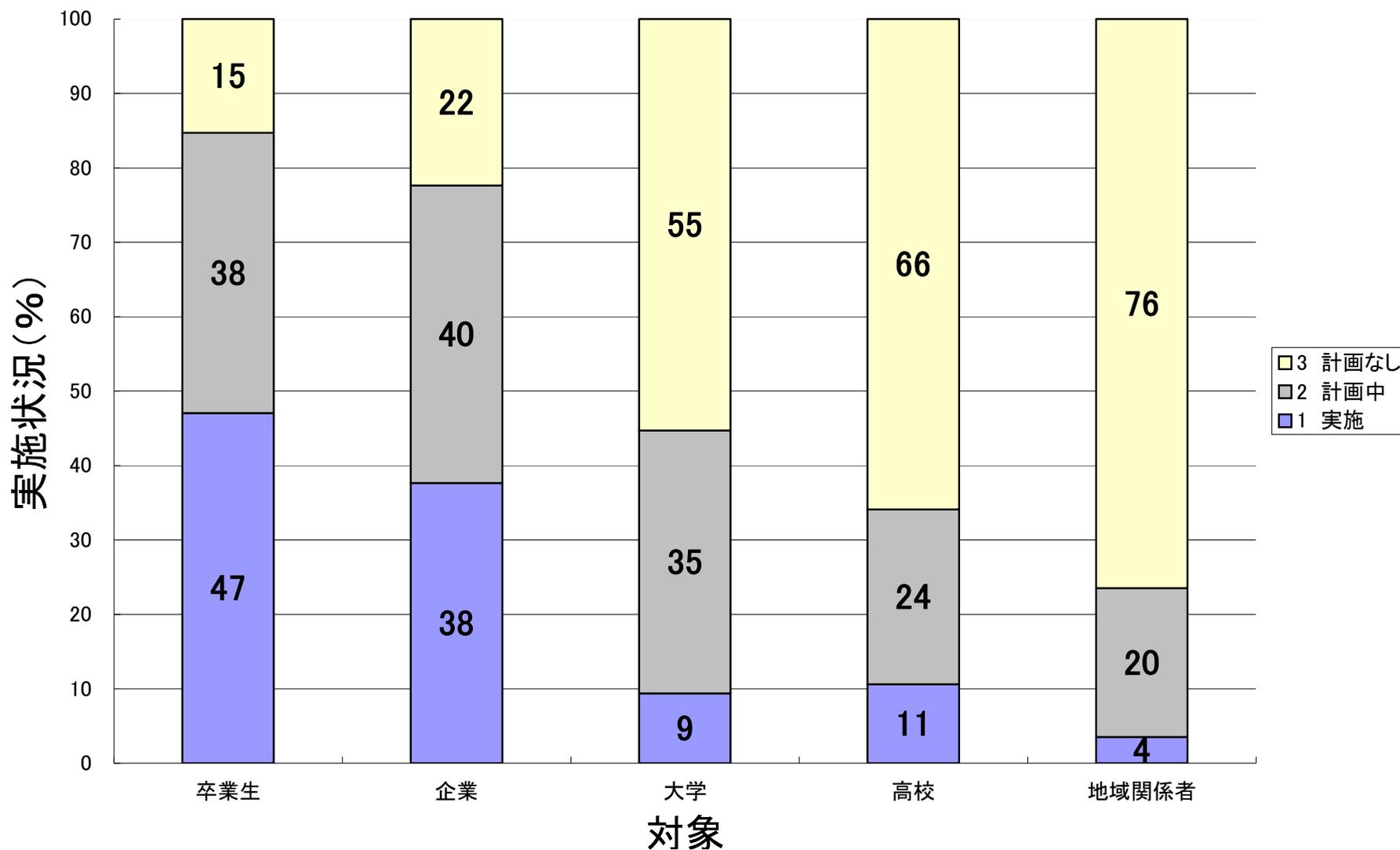
### 3-1. 卒業生を始めとする地域ステークホルダーとの関わり方～コミュニティカレッジへの途

- 短期大学にとって意味ある外部ステークホルダーとは？
  - 卒業生
  - 卒業生を通して地域の産業・職業・企業や行政への関わり方
  - 入学者や地域の高校生と高校等
- 地域ステークホルダーとの対話
- 地域ステークホルダーを意識した教育改革は？～地域総合科学科～

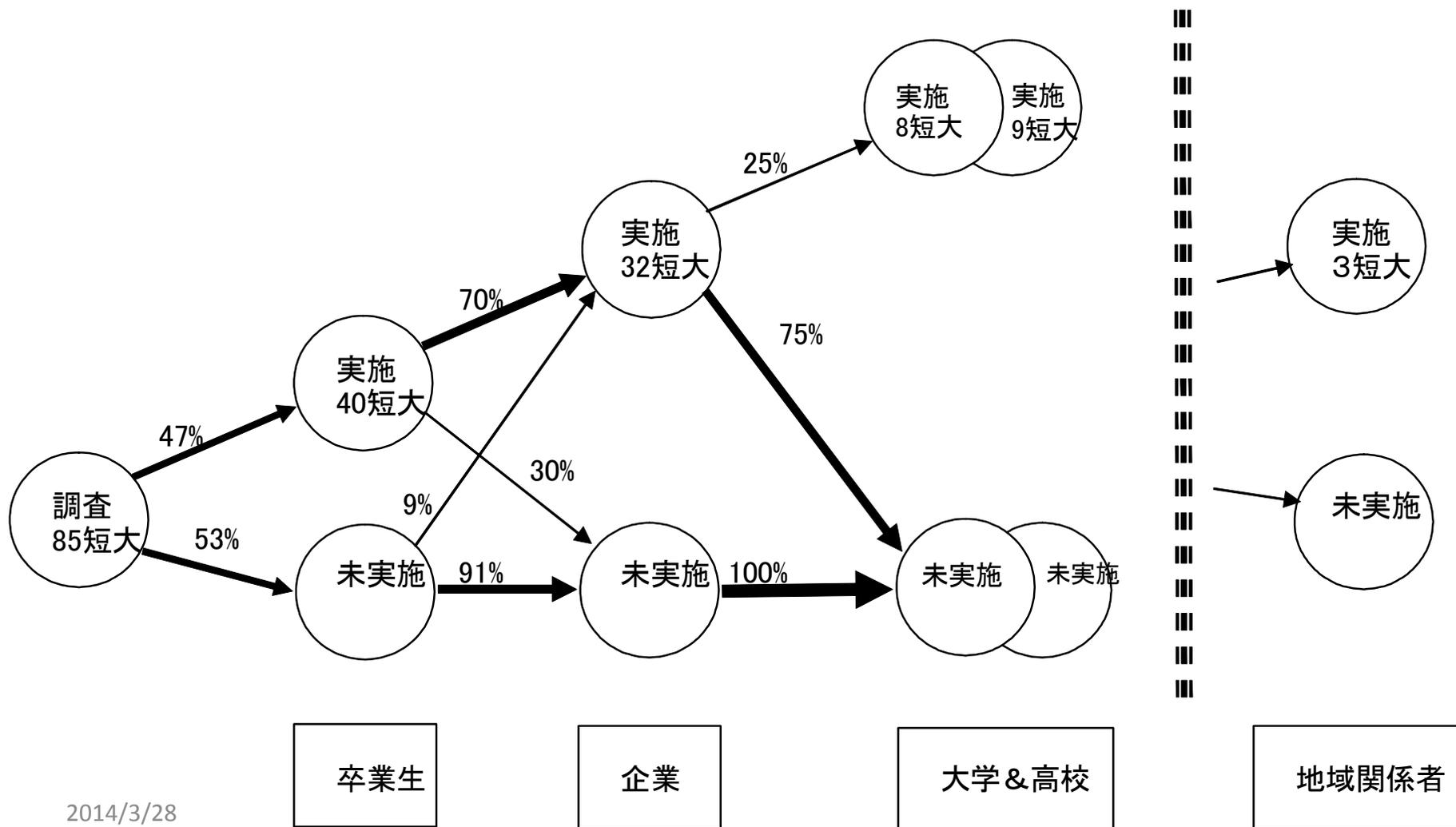
### 3-2-1. 学内に留まる授業評価と、学習成果やステークホルダーとしての卒業生へのアプローチ



## 3-2-2.ステークホルダー調査の実施状況(85短大) (2007年短大基準協会からの調査)



### 3-2-3. ステークホルダーへの接近の順序



## 3-2-4.調査をもとにしたステークホルダーへの関わり方 についての研修会の実施(九州・短期大学将来構想研究会)

主催:短期大学基準協会

共催:短期大学の将来構想に関する研究会

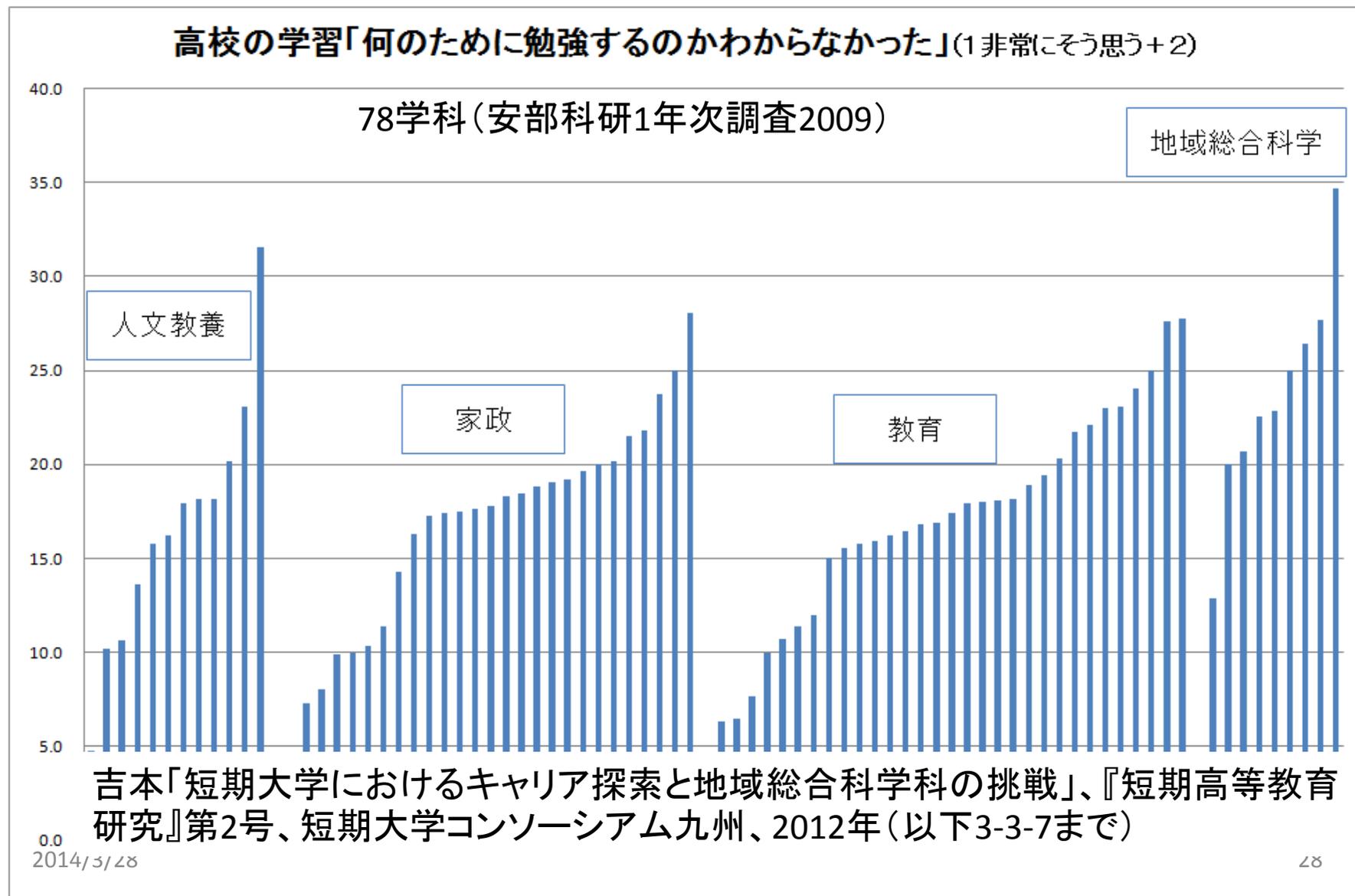
日時・会場:東京会場:2007年9月18日(火)@目白大学新宿キャンパス

札幌会場:2007年9月27日(木)@札幌国際大学

### 『ステークホルダー調査を通じた点検・評価に関するワークショップ』

		東京会場	札幌会場
13:00 ~ 13:10	開会・主催者挨拶	舘 昭	吉本圭一
13:10 ~ 13:20	短期大学の将来構想に関する研究会のあゆみ	田中正明	安部恵美子
13:20 ~ 13:30	イントロダクション	吉本圭一	安部恵美子
第1部	ステークホルダーへの接近	司会:田中	司会:吉本
13:30 ~ 13:50	卒業生を訪問、卒業生の訪問	武藤玲路	石原好宏
13:50 ~ 14:10	企業・大学の進路先との面談	高尾兼利	吉武利和
14:10 ~ 14:30	卒業生へのアンケート	稲永由紀	安部恵美子
14:30 ~ 14:45	質疑応答		
第2部	ステークホルダー調査の活用	司会:高尾	司会:安部
15:00 ~ 15:15	全国短大におけるステークホルダー調査とその活用	吉本圭一	吉本圭一
15:15 ~ 15:30	ステークホルダー調査活用事例報告	長崎女子短	長崎短大
15:30 ~ 15:45	各短大の取組について		
15:45 ~ 16:15	総括討論	武藤・高尾・ 稲永も参加	石原・吉武も 参加

# 3-3-1. キャリア探索支援としての地域総合科学科 短大学科別の高校学習の意味理解



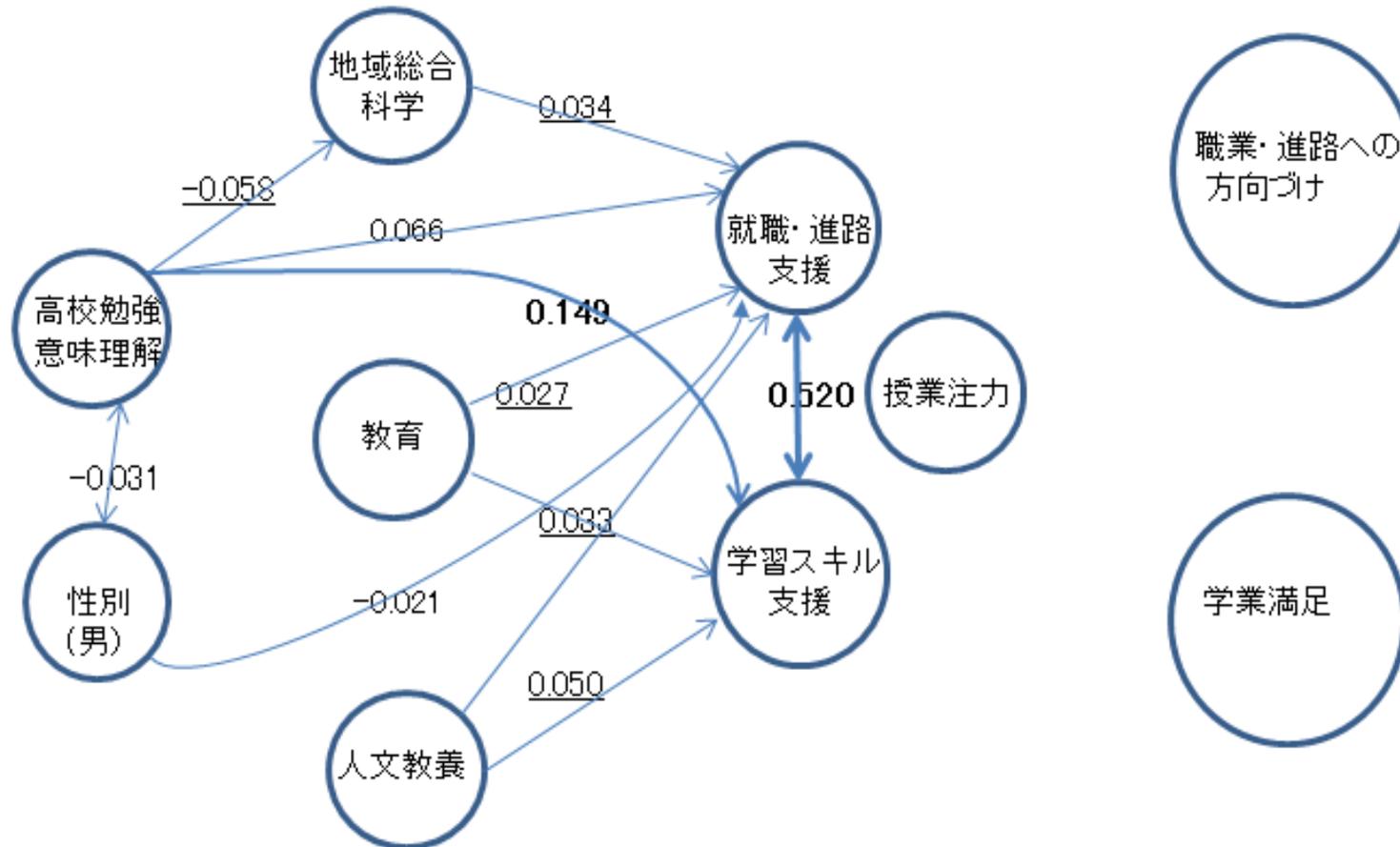
## 3-3-2.学科別のインプット・プロセス・アウトカム

学科別の入学時及び1年前期修了時の評価

学科類型	高校学習の意味無理解		学習スキル 支援体制	就職・進路 支援体制	学習満足(3 指標平均)	職業・進路 方向づけ	学科 数
	比率	変異係数					
人文教養	平均値	16.7	0.304	41.5	54.9	59.3	12
	標準偏差	6.8	0.049	12.5	13.2	8.0	
家政	平均値	16.6	0.304	33.1	42.5	56.5	27
	標準偏差	6.1	0.035	10.1	15.0	11.3	
教育	平均値	17.3	0.309	38.0	46.7	69.2	31
	標準偏差	5.6	0.046	11.4	12.5	11.6	
地域総合 科学	平均値	23.7	0.328	37.8	48.9	60.8	9
	標準偏差	6.0	0.034	10.8	14.1	10.0	
学科計	平均値	17.7	0.309	36.8	46.8	62.4	79
	標準偏差	6.3	0.042	11.3	14.0	36.1	

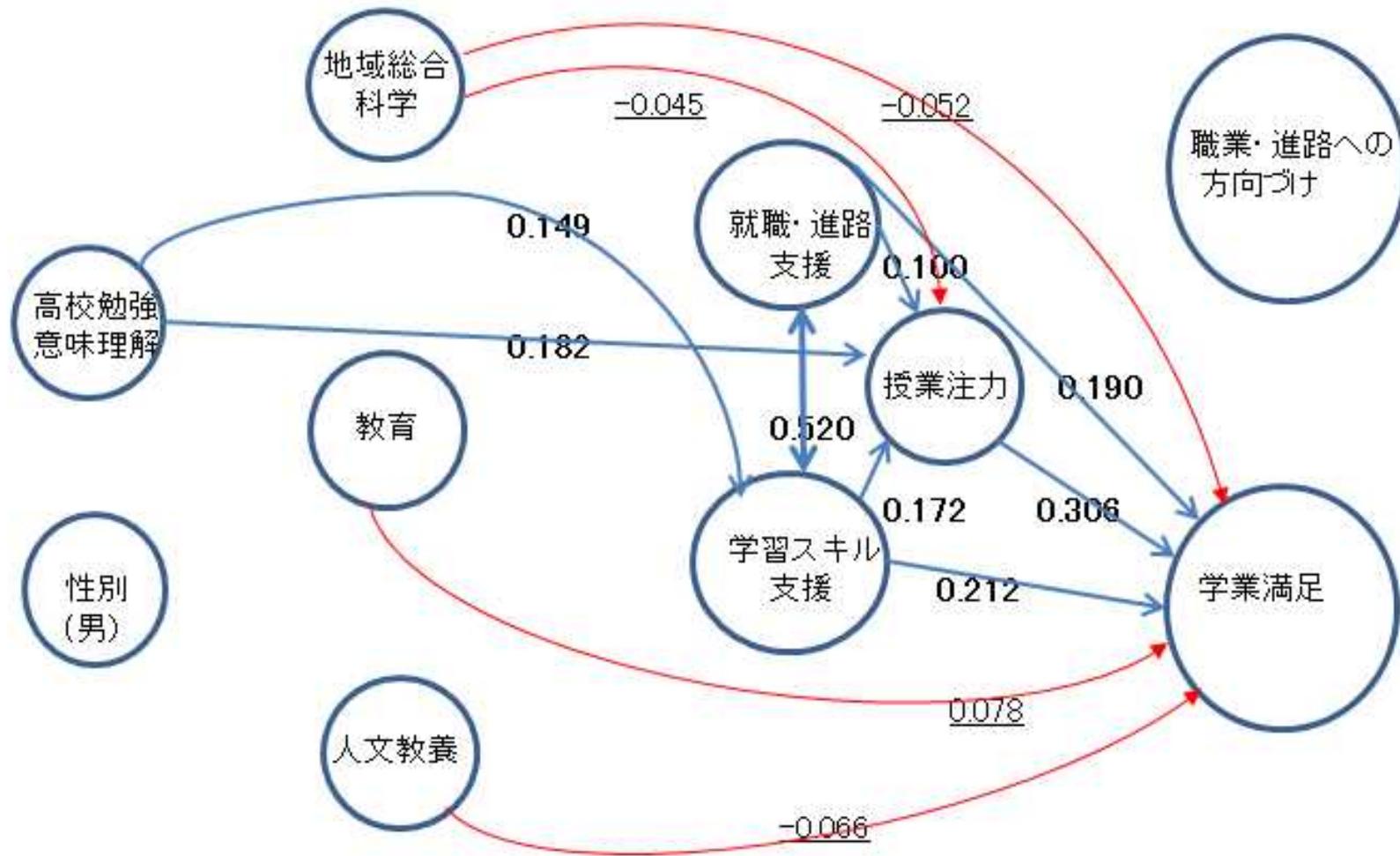
### 3-3-3. 学習状況とインプット・プロセスとの関連 特に学科類型に注目しながら

学生単位でのパスモデル① (N=6,774)



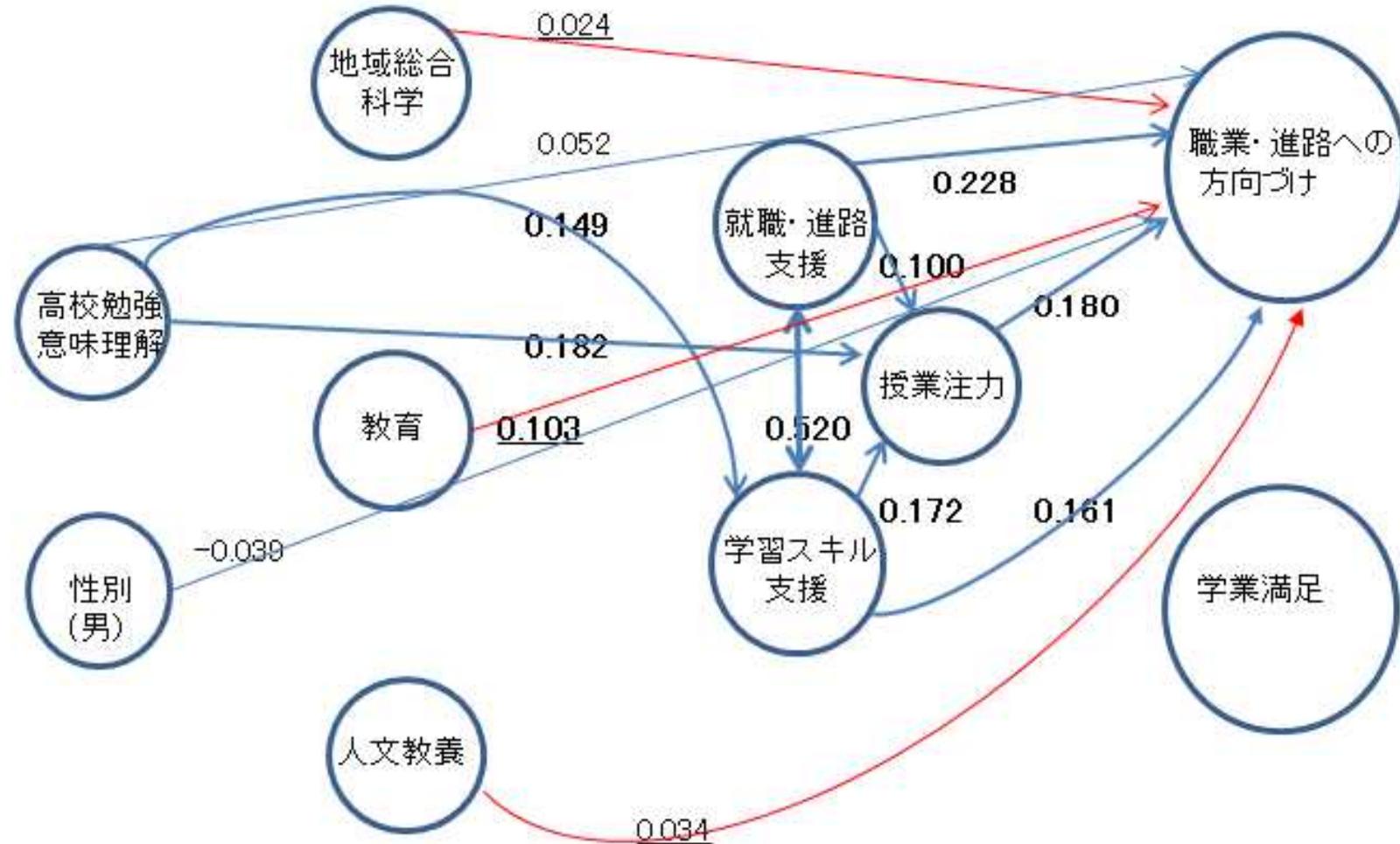
# 3-3-4. 学業満足の規定要因

学生単位でのパスモデル② (N=6,774)



### 3-3-5. 職業・進路への方向づけの規定要因

学生単位でのパスモデル③ (N=6,774)



### 3-3-6. 小括(1)

## 学生層の多様化と地域総合科学科

- 短期大学学生層の多様化は、短期大学間および短期大学内で生じている
  - とりわけ、高校における進路・キャリアを意識させる教育活動が欠落していることと関連すると想定されるが、短期大学では、「高校学習の無意味感覚」をもつ学生が多数入学し、特定の短大・学科に集中する傾向
  - 入学者層の質的な変化への対応として、平均の変化への対応、分散の変化への対応は異なる
- この挑戦の重要な受け皿が地域総合科学科

### 3-3-7. 小括(2): 学習スキルvs.職業・キャリアへのオリエンテーション

- 多様な学生に即応した指導モデル確立への地域総合科学科のアプローチ
  - より進路・職業を意識しているが明確な効果までは？
- 人文・教養領域における学習スキル中心の支援
  - キャリア・職業教育の推進の困難は？
- 職業に明確に焦点をあてることで「学習」と「職業へのオリエンテーション」とに相乗的にアプローチする教育領域
  - 労働市場参入以後の課題？

## 4-1.短期大学の教育方法論はどこまで大学モデルに忠実であるのか？－学校教育法－

- 大学「学術の中心として、広く知識を授けるとともに、深く専門の学芸を教授研究し、「知的、道徳的、応用的能力を展開させる」(83条)
- 短期大学は(大学の目的にかえて)「深く専門の学芸を教授研究し」「職業または實際生活に必要な能力を育成する」(108条)

## 4-2. 第三段階教育の発展と機能的分化

1. 第三段階教育の拡張と非大学セクター
  - 一部で非大学セクターから大学セクターへの制度・機関レベルでの転換 (academic drift)
  - 高等教育の周縁拡大と輪郭曖昧化
  - vocationalism
2. 機能別の分化
  - 中教審46答申の種別化構想
  - 「大学の機能別分化」、「職業実践的な教育に特化した枠組」
3. 類型的研究の多くは、機関分類、ヒエラルヒー分類
  - 国立大学内部、歴史と研究軸による外形分類 (cf. 米国カーネギー分類)
  - 偏差値による序列構造への注視、マスメディアの序列感覚
4. 水平的な機能的分化よりも垂直的な序列化に関心
  - 世界的な大学ランキングと研究(教育)資源の配分

## 4-3.「非大学」型高等教育 (ISCED5B-1997版) の世界的発展

- 「非大学型」の1970年代以後の世界的成長
  - コミュニティ・カレッジ(米)、継続教育カレッジ(英)、専門大学(独)、TAFE、RTO(豪)、専門大学(韓)など
- 日本における「非大学型」機関
  - 短期大学士・準学士・専門士レベル
    - 短期大学
    - 専門学校
    - 高等専門学校
    - 高校・専攻科 (ISCED4?)
  - 学士レベル (ISCED 5B? 5A?)
    - 短大専攻科、高等専門学校・専攻科
    - 専門学校・高度専門士課程
  - 学位課程以外のモジュール／修了証等のプログラム

## 4-4.国際標準教育分類(ISCED)の改訂

1. 国際標準教育分類(ISCED)の2011年改訂
2. 教育と訓練の専門分野分類の改訂案(2013年)
  - 「環境」や「ICT」の分野が固有の分類として分化
3. 非大学セクター(短大、専門学校、高等専門学校)の位置づけ
  - 非大学型(ISCED5b)-1997版
  - ISCED5(短期第三段階教育)-2011版
    - 一般教育(ISCED54)→短期大学？
    - 職業教育(ISCED55)→専門学校、高等専門学校？
    - 機能的分化と機関・制度的分化は一対一対応しない
      - 全ての短期大学プログラムが「一般教育」？
      - 全ての専門学校と高等専門学校が「職業教育」？
4. 教育資格と職業資格の非対応
  1. 看護師資格
    - 4年制大学(ISCED6)、専門学校(ISCED5)、高等学校看護科専攻科(ISCED4)で取得可となれば、看護師資格の水準とは？

## 4-5. 参照：専修学校における職業実践専門課程 職業の、職業による、職業のための教育

- 非大学セクターに焦点をあてた職業教育の質保証
  - 教育の目的(goals)、方法論(methodology)、統制(control)を探究
- 「職業教育」とは、
  1. 「教育の目的論」—人材養成の目的
    - 「一定のまたは特定の職業に関わる教育」という明確な目的の有無
  2. 目的に適合した「教育の方法論」
    - 職業固有の知識体系や伝達方法、教授する教育スタッフの固有性
    - 「職業を通じた教育」対「学術を通じた教育」
  3. 「教育の統制論」—目的論・方法論の教育課程への展開
    - 職業教育におけるガバナンス
      - 教育の企画・実施・評価における、地域・産業・職業の関係者の関与
    - Cf.大学型の高等教育におけるガバナンス
      - 高等教育のガバナンスとして学長のリーダーシップ
        - » 管理運営体制と外部ステークホルダー
        - » 教育実施組織
- 短期大学は地域の、地域による、地域のための教育を提供するコミュニティのカレッジになるのか？